

平成 25 年度 第 2 回 (通算 69 回) 研究例会 (山口研究例会) のご案内

本年度第 2 回 (通算第 69 回) 研究例会を、来る 12 月 14 日 (土)、山口市歴史民俗資料館 (山口県山口市) にて開催いたします。

今回の例会では、元毛利博物館館長 小山良昌先生のご講演、ならびに副支部長 上杉進先生の研究発表とともに、例会会場の山口市歴史民俗資料館所蔵資料の展覧も予定されています。会員の皆様にはぜひ山口の地にご参集いただきますよう、ご案内申し上げます。

研究例会のあとには、忘年懇親会を企画いたしております。こちらの方へも多くの皆様のご参加をお待ちしております。

日 時： 平成 25 年 12 月 14 日 (土) 12:30 受付開始
会 場： 山口市歴史民俗資料館 2 階 学習室
〒753-0073 山口市春日町 5-1 電話: 083-924-7001

プログラム：

開会行事 (13:00-13:05) 支部長挨拶 田村道美 (香川大学)

講演 (13:05-14:35)

「杉孫七郎の渡欧と長州ファイブ」

小 山 良 昌 氏 (山口県地方史学会長・元毛利博物館館長)

万延元年(1860)、幕府の遣米使節に随行した藩士北条源蔵、ついで、翌文久元年(1861)幕府の遣欧使節に随行した藩士杉孫七郎から、欧米の進んだ文明の実態報告を受けた藩首脳は、攘夷運動の先頭を走る長州藩の攘夷戦は負け戦となることを覚悟。藩が採った「次善の策」が、若き優秀な藩士 5 人の英国留学であった。5 人の内、井上馨と伊藤博文は 4 国艦隊の下関報復戦の情報を入手し、急遽帰国し、講和会議の通訳として活躍する。
--

資料展覧 (14:35-15:20) 山口市歴史民俗資料館所蔵資料 (大村益次郎関係ほか)

研究発表 (15:20-16:20)

「松下村塾最後の塾生 正木退蔵と吉田寅次郎」

上 杉 進 氏 (元高水高等学校)

「...上策は和漢の学を廃絶し、杉田成卿へなりと入塾し、蘭学三年するに如かず、これ大業大功なり。...」と尊王攘夷の総本山といわれた長州で松陰は説くのである。 退蔵少年は、語学習得に目覚め、村田蔵六 (蘭学)、Vedder (英学) の薫陶を受け宿願の英国留学を果たす。英国再訪中に、『宝島』の作者 Stevenson に出会い、師を語る。かくして世界初の ‘Yoshida-Torajiro’ 伝が生まれた。退蔵は帰国後、東京職工学校の創立とハワイ移民に関わり日本の近代化に貢献した。退蔵の心を奪った松陰の教えは何であったのか。掘り起こしを試みたい。

閉会行事 (16:20-16:30) 副支部長挨拶 松岡博信 (安田女子大学)

忘年懇親会 (17:30-19:30) 心和食まほら (山口市湯田温泉 3-3-15, Tel083-934-7321) (予算 5,000 円程度)



(山口県ホームページより)